



令和3年度加古小6年生の学力調査結果について

校長 吉田 博明

国語

○成果があった点 ●課題がある点

話すこと・聞くこと

必要な情報を集め、それらをまとめてスピーチする学習は、国語科だけでなくいろんな教科でも行っています。その成果として、資料を効果的に使いながら話す力はついてきています。今後は、自分の考えを的確に伝えるために、スピーチの内容を精選して全体を構成する力を養うように取り組んでいきます。

○目的や意図に応じ、資料を使って話す。

○資料を用いた目的を理解する。

●目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える。

書くこと

意見を述べる文章は、国語科の学習だけでなく、他の教科等の学習でも積極的に取り入れられています。文章全体の構成を考えたり、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書いたりすることはできています。しかし、自分がそう思った理由や、違う立場の読み手への反論などを、文章全体の中でどこに配置し、どのように書いたらより説得力のある文章になるかを考えて書くことが難しいようです。

○自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える。

●目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えを伝えられるように書き表し方を工夫する。

読むこと

説明や解説のある文章を読み、内容の中心となる事柄や書き手の考えの中心となる事柄が、文章全体を通してどのように構成されているかを正確に捉えることができます。しかし、一つの情報のみに基づくのではなく、目的に応じて、文章と図表などの情報を関係づけて検討するなど、複数の情報を結び付けて考えを形成することに課題があります。

○文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事例を把握する。

●目的を意識して、中心となる語や文を見つけて、要約する。

●目的に応じ、文章と図表を結び付けて、必要な情報を見つける。

言語の特徴や使い方に関する事項

主語と述語が複数ある文において、主語と述語の関係を捉えることはできています。今後は、授業や日々の家庭学習で漢字練習を行い、間違いやすい熟語については、漢字辞典を使って意味を調べたり、短文作りをしたりする学習を取り入れたいと思います。

○文の中における主語と述語の関係を捉える。

○思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う。

●学年別漢字配当表に示されている漢字を分の中で正しく使う。

●文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。

算 数

○成果があった点 ●課題がある点

数と計算

日頃の継続的な反復練習の成果として、基礎的な計算力は身につけています。また、問題場面から必要な数量を選び、事柄や関係を数学的に表現・処理することはできています。しかし、問題や式の意味を理解し、自分の言葉で説明することに苦手意識があるようです。

○示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる。

- 商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算することができる。
- 小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる。

図 形

基本図形の面積の求め方や性質については理解ができていますが、図形を構成する要素などに着目して、筋道を立てて説明する力が不足しています。

○三角形の面積の求め方について理解している

- 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる

測 定

日常生活に必要な時刻や時間を求めることは十分できています。

複数の図形を組み合わせた図形の面積については、量が変わらなかつたり増えたりすることの理解が不足している児童もいます。

○条件に合う時刻を求めることができる

- 複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる

変化と関係

速さを求める式は理解しています。しかし、グラフや図から速さを求める除法の式と商を求め単位量当たりの大きさを用いて比較することに課題があります。

○速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる

- 速さを求める除法の式と商の意味を理解している

データの活用

棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることはできています。しかし、データを、観点を決めて分類したり、統計的な問題解決につなげたりする力が不足しています。

○棒グラフから、数量を読み取ることができる

○棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる

- 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる

学校・家での様子

本校の6年生児童は、「朝食を毎日食べている」「毎日同じぐらいの時刻に寝ている」「毎日規則正しく起床している」と回答した児童の割合が全国、県平均より高く、望ましい生活習慣の定着が見られます。

また、「いじめはどんなことがあってもいけないことだ」「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童の割合も全国、県平均より高く、児童の規範意識の高さがうかがえます。

「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童の割合も高く、自己肯定感、達成感に関する内容の割合が高く児童の自尊感情が育っていると考えられます。

学習に対しては、算数や国語、英語の勉強が好きで、それらの勉強が大切だと考えている児童が多く、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」は、全国、県平均を大きく超え、意欲的に学習できています。

また、読書に関する質問では、家の蔵書冊数の割合が全国、県平均より多く、家庭環境が充実していることがわかります。

家庭・地域での様子では、今住んでいる地域の行事への児童の参加率は非常に高く、ほぼ9割の児童が積極的に参加できています。

新型コロナウイルス感染拡大のために休校していた期間中の質問では、多くの児童が「勉強について不安」を感じたものの、ほぼ8割の児童が「計画的に学習」し、「規則正しい生活を送る」ことができたと回答していました。休校中の課題でわからないところは、「家族に聞いた」「自分で調べた」の割合が多く、ここでも自主的に学習に取り組む姿勢がうかがえます。

令和3年5月27日に全国学力・学習状況調査が行われました。加古小学校6年生の調査結果は、国語は、全国、兵庫県平均とほぼ同じ程度、算数はやや高いという結果がでました。児童質問用紙の回答は、上記のように、全国や兵庫県と比べてもかなり高いという結果が出ています。加古小学校6年生の児童は規則正しく生活し、意欲的に学校生活に取り組んでいます。また、友達と話し合ったり協力し合ったりして物事に取り組むことができます。

今回の結果を教職員で共通理解を行い、児童の指導に活用していきたいと思っております。